

## 私と家族を紡いだ「どん平」

荒川区に生まれ、荒川区で育ちました。実家は、昭和25年創業のとんかつ店「どん平」。両親は、お店をやりながら、幼い私をとてかわいがってくれました。私も両親と一緒にいたかったので、自分の部屋にいるよりもお店にいる時間が長く、いつも父と母の働いている姿を見ていました。私は読書が好きなのですが、父と一緒にお店の新聞を読んだことが、読書好きになったきっかけだと思います。「どん平」は、家族と多くの時間を過ごした大切な場所です。



▲どん平前にてお兄さんと

## 商店街が私を育ててくれた

幼いころは、よく地元の商店街で過ごしていました。商店街には、いろいろなお店があって、いつもおいしそうなお匂いがして…。八百屋さんや魚屋さん、焼き鳥屋さん等、なんでもそろっていました。お店の人もみんな元気で、大きな声を出しながらお客さんを呼び込んでいましたね。私は、そんな商店街で、お店の人たちに声をかけて回ったり、ときには相談に乗ってもらったりしていました。商店街の人たちに育ててもらったと言っても過言ではないです。



▲自宅にて

## “楽しくて、その連続の俳優業”

俳優になろうと思ったのは、大学時代の演劇サークルがきっかけでした。たまたま誘われて行ってみたのですが、本当に楽しくて！サークルでは、俳優だけでなく、舞台のセット作りや舞台監督等、いろんな

役割を自分たちで行っていたのですが、何もかも楽しくて、「ハマってしまった」という感じでした。あまりにも楽しいので毎日通い続け、いつの間にか今に至るといった感じです。よく「俳優の仕事の魅力、を聞かれるのですが、「いろんな人物になれること。そしてその人物を通して人間が知れること」だと思っています。作品を見た方から「観たよ」と言ってもらえることもうれしいですね。特にうれしいのは、私自身のことを知っているのではなく、「あの作品に出ていた人だ」とか「あの役の人でしょう」とか言ってもらえたときです。俳優として作品中の人物を演じているので、そういうふうに行ってもらえたときには、見た方の印象に残るくらい役を演じることができたんだと思います。



▲荒川区の小学校で「狂言」を読む

## コロナ禍では一人芝居を企画

コロナ禍で社会全体が大変だった時期には、実家の「どん平」で、「とんかつを買いに来てくれる方にお芝居を見せたら、お客さんがもっと来てくれるかな」という思いで、一人芝居を企画しました。演目は、かつて尾久で事件を起こした人物である阿部定をテーマにした一人芝居「切断」。俳優仲間や演出家、西尾久の町会長さんをトークゲストとして招いたりして、お店のお座敷で、お芝居の後にとんかつを食べていただく、という形で行いました。何度か開催していたら、たまたま西尾久取材していたテレビ局の方に伝わって、広めていただけたことはラッキーでした。



## 「あらかわ遊園」 「ゆいの森あらかわ」が大好き

区内のスポットでは、あらかわ遊園が大好きです。子どものころに何度も遊びに行き、あらかわ遊園のプールでは、父から水泳を教わったりしました。今回、リニューアルしたあらかわ遊園にケーブルテレビの取材で初めて行きましたが、園内の雰囲気良く、アトラクションも増えていて楽しかったです。



また、ゆいの森あらかわも大好きなスポットです。館内が明るく、いすの座り心地も良く、てのびのびと快適に過ごせるところが気に入っています。そういえば、実は私、ゆいの森あらかわの名称公募に応募しているんです！残念ながら採用されませんでした…(笑)。でも、今となっては、「ゆいの森あらかわ」って良い名前だな、と思っています。図書館には、出演する作品の原作や関連する本を探しに来ることが多いです。これだけ本がたくさんあるので、「あっ、あれもこれも読んでみたい」と目移りしてしまい、結果、全く違うジャンルの本を何冊も借りて帰ることも。いろいろな知識をたくさん得ることができるのでうれしいです。



子どもたちにとっても「素敵な大人」を目指して

## 俳優 安藤玉恵さん

略歴 西尾久のとんかつ店「どん平」の長女として生まれる。大学では演劇サークルで活動。卒業後は俳優として、連続テレビ小説「らんまん」「あまちゃん」、ドラマ「阿佐ヶ谷姉妹のほほんふたり暮らし」「深夜食堂」等に出演。

## 家族みんなで「読書」を楽しむ

私は読書が大好きです。父と一緒に読んだ新聞から始まり、今は、自分が出演する作品の原作や関連書籍をよく読んでいます。原作を読むのは、自分の仕事に対して誠実に取り組みたい、という理由もありますが、「この原作を、どう映像化するのか」と考えたときにワクワクしてくる好奇心のほうが強いかもかもしれません。ちなみに、漫画が原作の作品も多いので、漫画もたくさん読んでいますよ。自分の子どもが小学生だったときは、学校の「図書ボランティア」をしており、夏休みには、プールに来た子どもたちに読み聞かせしたりしていました。荒川区では、「家読」という取り組みをしていますよね。私がおすすめる「家読」のやり方ですが、ずばり、読み手が思いっきり楽しんでしまうことだと思います。泣いたり笑ったりしながら



物語に没頭する大人の姿を子どもに見せてあげるのが良いのではないかな。そもそも読書が苦手な人は無理にやらなくていいし、お母さんやお父さんだけがすることでもないと思います。ただ、会話のきっかけになることは間違いないので、気軽に、新聞や雑誌に載っているクイズ等から始めてもいいのかなと思います。



### おちゃのじかにきたとら

作・絵：ジュディス・カー / 訳：晴海耕平 / 出版社：童話館出版

トラが家に来て、家中の食べものを食べてしまう不思議なお話なのですが、絵も素敵でとても楽しい絵本です。最後、トラがラッパを吹いて「さよなら、さよなら、さよなら、さよなら」っていうところは、子どもが一番好きなところでした。



### ぼくはめいたんてい〜きえた犬のえ

文：マージョリー・ワインマン・シャーマット / 絵：マーク・シーモント / 訳：光吉夏弥 / 出版社：大日本図書  
名探偵シリーズです。お子さんも、気に入ると自分から次々と読み出してくれるはず。少し早口でリズムカルに読むと面白いです。



### 青い馬の少年

文：ビル・マーティン・ジュニア、ジョン・アーシャンボルト / 絵：テッド・ランド / 訳：金原 瑞人 / 出版社：アスラン書房  
目の見えない少年が見ている世界を想像する物語です。つい涙が出てしまいます。文学への橋渡しになると思っています。



## 生まれ育った荒川区でやってみたいこと

年が明け、令和6年になりました。今後の夢なのですが、生まれ育った荒川区で、野外劇をやりたいと思っています。あらかわ遊園のアリスの広場を使って、シェイクスピアとか。子どもはちょっと怖い物語が好きなので、夏なら近代能楽

集をわかりやすくした舞台とかも良いですね。アリスの広場は背景がきれいなので、子どもから大人まで楽しめる素敵な野外劇になるだろうな、と思っています。



年が明けても宿題が減るわけでもないし、お小遣いが上がるわけでもない。気が合わない子は今年も合わないかもしれない。でも、みんながこれから出会う大人が、素敵な人たちだったらいいなと、私は思っています。その素敵な人になるために、私は、自分が今年やるべき、そして頑張るべきことをしっかりやろうと思います。

安藤さんの今後の公演 KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース 『スプーンフェイス・スタインバーク』  
【期 間】 2月16日(金)～3月3日(日)  
【会 場】 KAAT 神奈川芸術劇場大スタジオ (神奈川県横浜市中区山下町281)  
【出 演】 片桐はいり 安藤玉恵 ※ダブルキャスト  
【内 容】 自閉症でガンを患う7歳の少女・スプーンフェイスを通じて、命の輝き、生きる意味を問う一人芝居  
【問合せ】 チケットかながわ ☎0570(015)415 (年末年始を除く、午前10時～午後6時)

